

Nikon

完全自動一眼レフ

ニコンFの使い方



前 面

1. 自動コマ数表示盤
2. フィルム長さ表示窓
3. フィルム巻上げレバー
4. シャッターボタン
5. フィルム巻戻し(A-R切替え)リング
6. シャッター目盛盤
7. シンクロセクター(つまみ上げて回す)
8. シンクロセクター窓
9. アイレベルファインダー
10. アクセサリーシュー
11. フィルム巻戻しクランク
12. シンクロソケット
13. プリセット絞りリング
14. 絞り指標
15. 距離指標と被写界深度目盛

16. レンズ着脱ボタン
17. 距離目盛と距離リング
18. 反射鏡固定ノブ
19. セルフタイマー
20. 手動絞りボタン
21. 露出計連動ツメ

背 面

22. ファインダー着脱ボタン
23. ファインダー接眼窓
24. フィルム感度(A S A)表示盤
25. 三脚ねじ穴
26. 裏ぶた開閉キー

このたびは**ニコンF**をお買上げいただきありがとうございます。

ニコンFはその完ぺきなメカニズムと交換レンズや、特殊撮影装置など豊富な付属品の完備によって、「35ミリ写真術」の完成を可能にした35ミリ判カメラの決定版一眼レフです。

その性能と品質は世界最高級品として評価され、国内はもとより広く海外に輸出され絶大な名声と信頼をいただいております。

今後とも一層のご愛顧を賜われますようお願い申し上げます。

なおご使用に際してはつねに適切な取り扱いおよび手入れと、品質の保証された**ニコン**付属品の活用によって、いつまでもご愛用ください。

- ファインダーは画面に写る大きさ100%がそのまま見られ、どんなに被写体の距離が近くてもパララックス（視差）が生じません。
- ファインダーはアイレベルファインダー、フォトミックTNファインダー、FTNファインダー、ウエストレベルファインダー、アクションファインダーとそれぞれ交換できます。
- ファインダースクリーンが14種類あって交換できます。
- ミラーアップ装置によって魚眼レンズ（フィッシュアイニッコール）が使用できます。
- 手動絞りボタンによって被写界深度が容易に調べられます。
- シャッター幕はチタン（軽金属）製ですから耐蝕性、不燃性に優れています。
- シンクロがタイムラグ可変式ですからFP級以外の閃光電球でも完全同調します。
- 露出計にはシャッター速度とレンズの絞りの両方が連動します。
- モータードライブとの連結機構付きですから簡単にモータードライブ付ニコンFになります。
- その他豊富な付属品によって接写、複写、顕微鏡写真、天体写真等の特殊撮影をすべて完璧に行なうことができます。
- 高度な技術によって製作されていますので耐久性、耐寒性が優れています。

性能

タイプ：35mm一眼レフレックスカメラ

画面サイズ：24mm×36mm

ファインダー視野：画面サイズの100%

レンズマウント：ニコンFバヨネットマウント

レンズ絞り：瞬時復元式

手動絞りボタン付

ミラー：瞬時復元式，上方に固定可能

ファインダー：アイレベルファインダー付

〔フォトミックTNファインダー
フォトミックFTNファインダー
ウエストレベルファインダー，
アクションファインダーと交換可能〕

ファインダースクリーン：スプリット式A型付

マット式マイクロプリズム式
など14種交換可能

シャッター：チタン(軽金属)製シャッター幕

フォーカルプレーンシャッター
T, B, 1~1/1000秒

セルフタイマー：持続時間可変式

目盛3, 6, 10秒

シャッター巻上げ：} 一作動式(小刻み可能)
フィルム送り：}

フィルムコマ数計：自動復元順算式

フラッシュシンクロ接点：タイムラグ可変式

スピードライト(ストロボ)

には1/60秒で同調

裏ぶた：着脱式(モータードライブ
と交換可能)

大きさ：レンズなしで

147mm×98mm×54mm

重量：レンズなしで 685g

[50mm F1.4レンズ 325g]

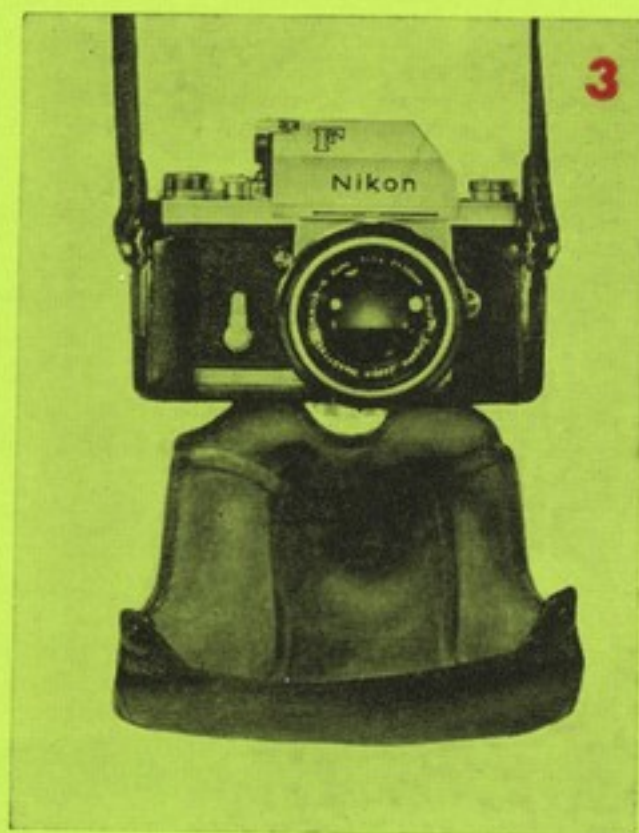
[50mm F2レンズ 205g]

[55mm F1.2レンズ 420g]

目 次

前面図・背面図	2	レンズの交換	19
各部の名称	3	ファインダースクリーンの交換	20
ニコンFが誇る特長	4	ファインダースクリーンの種類	21
性能	5	フラッシュ撮影	22
速写ケース	7	反射鏡の固定	24
ご 注 意	7	赤外線写真	24
フィルムの入れ方	8	セルフタイマー	25
自動コマ数表示盤	10	フィルムの巻戻し	26
フィルム長さ表示窓のセット	10	二重露出	26
フィルム感度(A S A)表示盤	10	ニコンマガジン	27
自動プリセット絞り	11	フィルムのマガジンへの装填	28
シャッタ目盛盤	12	フィルムの取出し	28
ピント合わせ	13	連動露出計	29
フィルムの巻上げ	14	ニッコール交換レンズ表	30
カメラの構え方	15	レンズフード	32
被写界深度	16	ニッコールフィルター	33
手動絞りボタン	17	ニコンFの付属品	34
ファインダーの交換	18	カメラとレンズの手入れ	35

速写ケース

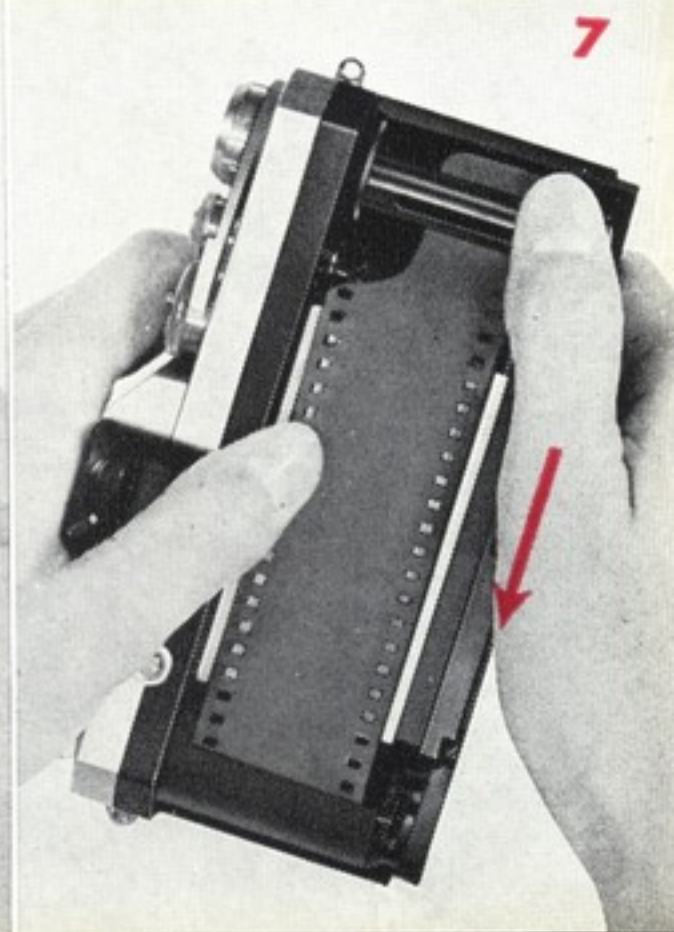
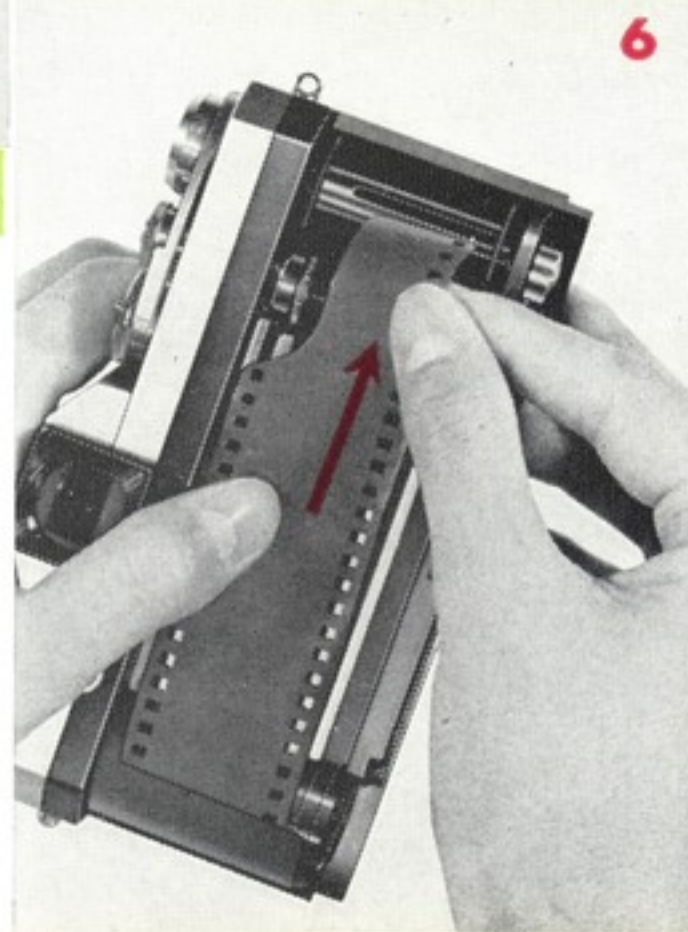


カメラは速写ケース（第3図）に入れたならば底のねじ金具を十分に締めてください。この金具にはねじ穴があって、カメラをケースに入れたまま三脚に取り付けることができます。速写ケースは前ぶただけを取り外すことができます。速写ケースにはハード皮ケース、セミソフト皮ケースがありますが別にソフト皮ケース、およびニッコールオートズーム43mm～86mm取り付け用ハード皮ケースも販売しております。いずれも露出計付きで収納できます。

ご注意！

- 速写ケースの底のねじはカメラに締め付けておきませんとカメラを落とすおそれがあります。
- カメラを三脚にじかに取り付ける場合にはねじ穴の深さより長い三脚ねじを無理にねじ込まないように、ご注意ください。（ねじ穴がこわれます）
- カメラのフォーカルプレーンシャッター幕はきわめて薄いチタン製ですから押したり突いたりしないでください。
- カメラをしまう時には、シャッターもセルフタイマーもかけたままにしないでおきたいものです。
- カメラやレンズはみだりに分解しないでください。
- カメラとレンズの番号の記してある保証票を紛失されぬように、また、番号を別に記録しておくことをおすすめします。これはカメラやレンズを紛失された時に役立つことがあります。

フィルムの入れ方



カメラの裏ぶたを開くには、底部にある裏ぶた開閉キー②⑥を回して指標をopenに合わせ(第4図)、裏ぶたに親指をあてて押し出すようにして静かに取り外します。(第5図)

パトローネまたはフィルムを入れたマガジンをマガジン室に納めます。この際マガジンならばその外枠の突起をカメラ内の案内ノッチに合わせます。

次にパトローネまたはマガジンからフィルムを10cm程出し、スプールの隙穴にさし込んで隙穴のふちの突起にフィルムの穴をかみ合わせたならば(第6図)、スプールの下をくぐらせて巻きます。フィルムをおさえスプロケットにフィルムの穴をかみ合わせながら(第7図)スプールにたるみなく巻けましたならば、カメラの裏ぶたをかぶせます。そして開閉キーの指標を、closeに回せば、フィルムはカメラに装填されたこととなります。

しかしここでシャッターボタンの周縁のA-R切替えリングをA(第8図)に回すことを忘れてはなりません。そしてコマ数表示盤が1となる



までレバーを巻き上げてシャッターを切り、装填中に感光した部分のフィルムを送っておきます。なおこのカラ撮りの巻上げの際、巻戻しクランク⑪がその上面の矢印の方向と反対に回ればフィルムが正しく送られていることがわかります。もし装填後巻上げレバーを操作する前に切替えリングをAに合わせることを忘れ、Rに合わせたままでレバーを巻き上げてもシャッターもフィルムも巻き上がりませんからご注意ください。自動コマ数表示盤だけが進んで指示が狂います。

自動コマ数表示盤

コマ数表示盤①(第9図)はカメラの裏ぶたを開くと同時に、自動的に出発点(ゼロ以前)に戻るようになっています。フィルムを装填したならば、前ページで述べたようにコマ数表示盤が1を指すまで1回または2回カラ写しをします。それ以後、撮影を進めるに従って、巻き上げたコマ数が自動的に示されます。ただしこの数は36で止まります。

フィルム長さ表示窓のセット



これは自動コマ数表示盤の手前(第9図)にあります。ツメで突起を左右に動かして装填したフィルムのコマ数に応じて36か20にセットしておきます。

フィルム感度ASA表示盤



装填したフィルムのASA感度をカメラ底部にあるASA感度表示盤②4にセットしておきます。黒い指標は黑白フィルム用、赤い指標はカラーフィルム用です。なおEとあるのは Empty の意味で、フィルムを取り出した際ここにセットしておきます。

自動プリセット絞り

ニコンF用のニッコールオートレンズとオートズームレンズの絞りは自動プリセット式です。すなわち絞りは常に開放になっておりシャッターを切った瞬間だけ自動的にあらかじめ定めておいた（プリセット）値に絞られ、直ちに元のようになり開放になります。

絞りをプリセットするには、絞りリング⑬を回して(第11図)、目的のFナンバーを指標に合わせます。

こうしてレンズはシャッターが切れる瞬間に絞られるだけで、つねに開放絞りでファインダー像が見えますから、ファインダー像はつねに明るく見やすくなっております。

なおレンズをプリセットした状態に絞ってファインダー像を見たい場合には**手動絞りボタン⑳**を押してください(P17参照)。このボタンを押している間だけレンズはプリセットした値に絞られます。



シャッタ目盛盤

シャッタ速度目盛（第12図）のセットはシャッタの巻上げの前でも後にでも行なうことができます。

シャッタ目盛盤⑥上の数字はシャッタ速度を示し、たとえば1は1秒、60は $\frac{1}{60}$ 秒の意味です。数字を合わせる指標は目盛盤の左側の黒点です。目盛盤をセットするにはその周縁のギザをそのまま（つまみ上げないで）左または右に回して数字を指標に合わせます。この場合クリックによって各数字で止まります。

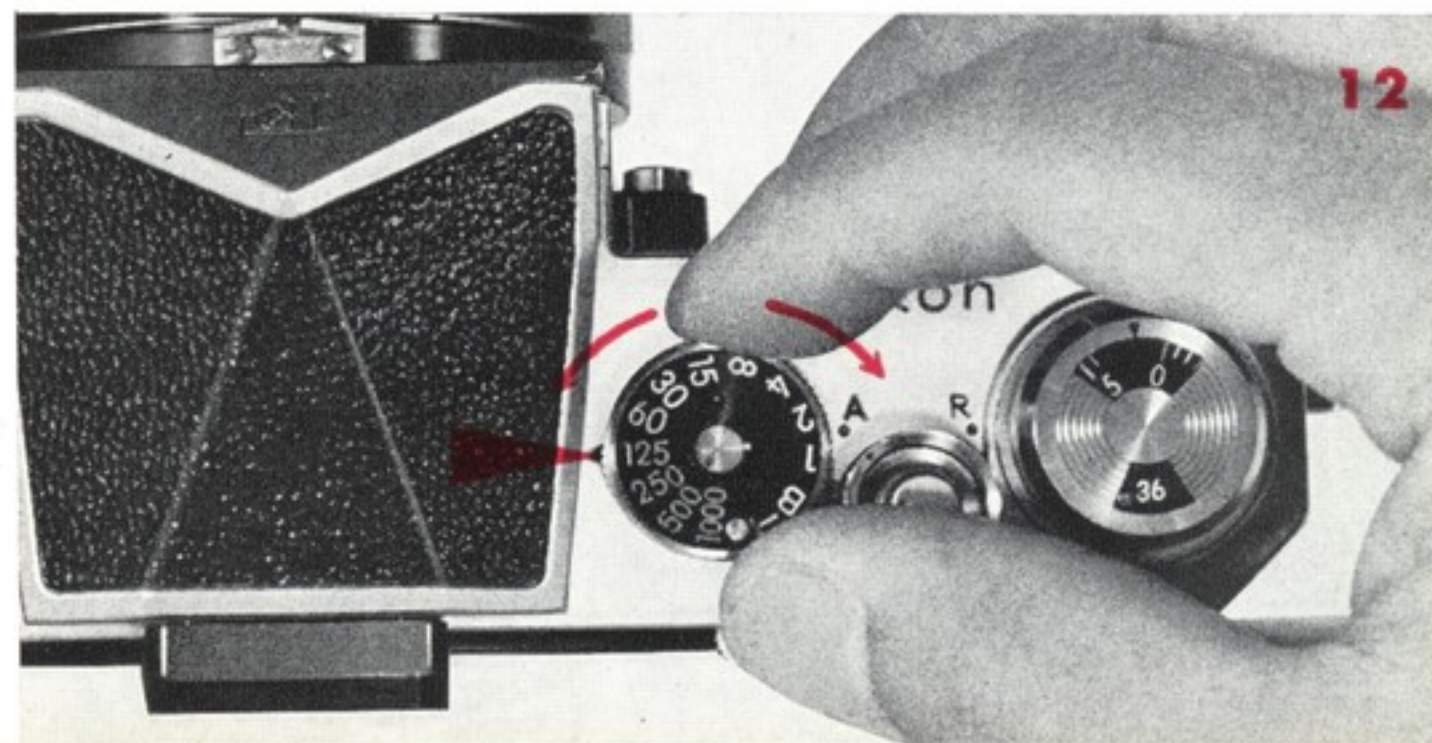
目盛盤をB（バルブ）に合わせますと、シャッタはシャッタボタンを押している間だけ開きます。

目盛盤をT（タイム）に合わせてシャッタボタ

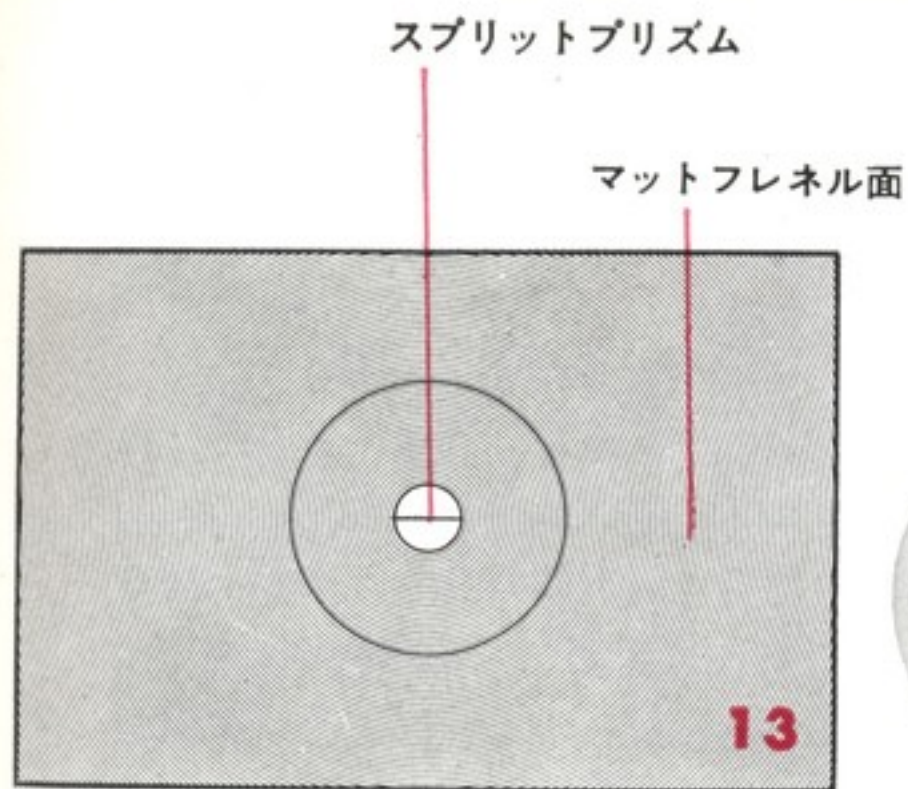
ンを押せば、シャッタが開いたままとなり、指を離しても閉じません。閉じるには目盛盤の文字Bまたは1000が外側指標を通過するまで右または左に回します。

シャッタ目盛の数字は緑色と赤色と白色とに色分けしてありますが、これはフラッシュシンクロセクターのセットをしやすくするためです。（P22参照）。

シャッタ目盛は倍数系列であり、しかも等分目盛ってありますから、露出計と連動させて使用することができます（P29参照）。目盛盤の上面のピンはこうした連動のために設けてあります。



ピント合わせ



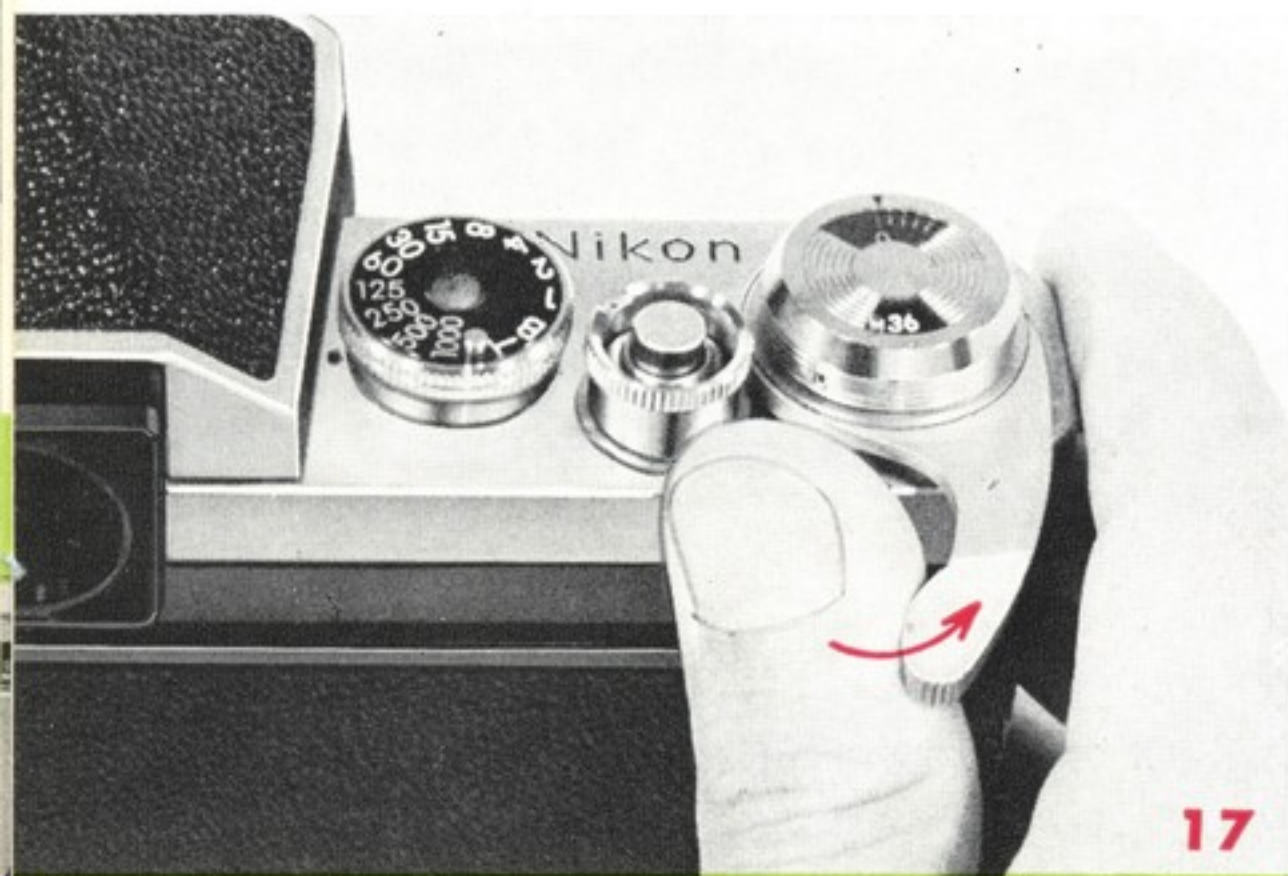
ニコンFに付いているファインダースクリーンはA型（スプリット式）ですので、ファインダー視野には第13図のように中央に円形の距離計部分があり、この円の中で被写体の像が水平の線によって上下に分割されています。

被写体に正しくピントが合っていないときはこの上下の像が互いに水平方向にずれてみえますが距離リングを回してピントが合うと上下の像は正しく合致します。（第14図、第15図）

もし被写体が横方向の線だけの場合はカメラを縦に構えて行なってください。

絞りがf/4.5以下、あるいは接写装置を用いてレンズの至近距離より近い撮影を行なう場合などには分割像が暗かったり、測定精度が十分でなかったりしますので、周囲のマット面を用いるか、そのときだけ他のファインダースクリーンに交換されることをおすすめいたします。（P.20～21参照）

被写体までの距離はレンズの距離リング上の距離目盛を黒い指標線によって読み取ることができます。



巻上げレバー③を止まるまで右に押してフィルムとシャッターを巻き上げ（第17図）シャッターボタンを静かに押してシャッターを切り露出を与えます。レバーの巻上げが足りないとシャッターボタンが押せない場合がありますから十分に巻き上げてください。

レバーは手を離せば元へ戻りますが完全に元の位置には納まらず、次の巻上げがしやすいようにいくらかスキマができます。これは指でちょっと押し込めば完全に納まります。

シャッター目盛盤の中心部の黒点は巻上げの際およびシャッターを切る際に回転します。この黒点が速度目盛をセットする外側の指標と合致していれば、シャッターは巻き上げていることになります。

17

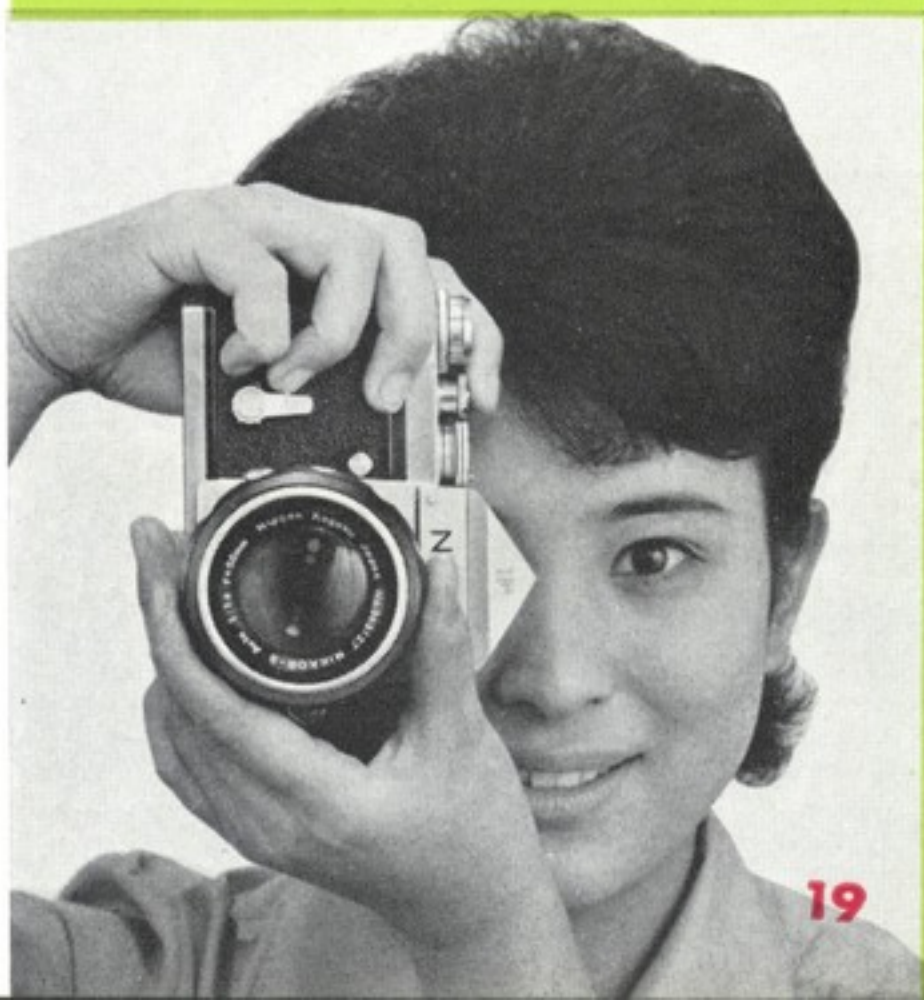
カメラの構え方

カメラは右手で握り、右手の人差指はシャッターボタンにかかけます。左手はカメラの底を支え、左手の親指と人差指はレンズの距離リングにかかけます。

カメラのフィルム巻上げレバーはカメラ背面に当てた右手の親指で操作することになります。なおカメラを横に構える場合でも縦に構える場合でもカメラの背面はなるべく頬や額に当てるようにすれば動揺が防げます。また両手のひじは体につけ、立っている場合は両脚を開いて身体をよく安定させてください。

$\frac{1}{30}$ 秒以下の遅い速度のシャッターを切る場合はカメラブレを防ぐために必ず**三脚**または何か適当な台を使用して固定してください。

なおこの際シャッターボタン上に**ケーブルリリース**をはめて、これによってシャッターを切ると一層安全です。



被写界深度

ピントを合わせた被写体の前後どれだけが十分に鮮明な像として撮影できるか、その範囲のことを**被写界深度**といいます。

この範囲は絞りの大きさと被写体までの距離、(撮影距離)によって変わり、レンズを絞れば絞るほど、また被写体が遠ければ遠いほど深く、逆の場合ほど浅くなります。

ニッコールレンズでは距離リングと絞りリングとの間にある**被写界深度目盛**によって読み取ることができます。

被写界深度目盛の使い方

被写界深度は絞り目盛と同色の被写界深度目盛に対応する距離目盛で読みとります。

例えば、ニッコール**50mm F1.4**レンズで**10m**の距離にある被写体にピントを合わせ、**f/8**に絞ったとします。絞り目盛**8**は桃色ですので、距離指標の左右に刻まれている桃色の線に対応する距離目盛**∞**と**5m**とが読みとられます。

このことから**∞**と**5m**の間、すなわち**5m**以遠にある被写体ならば**f/8**の絞りで十分鮮明な像が得られることがわかります。(第20図)

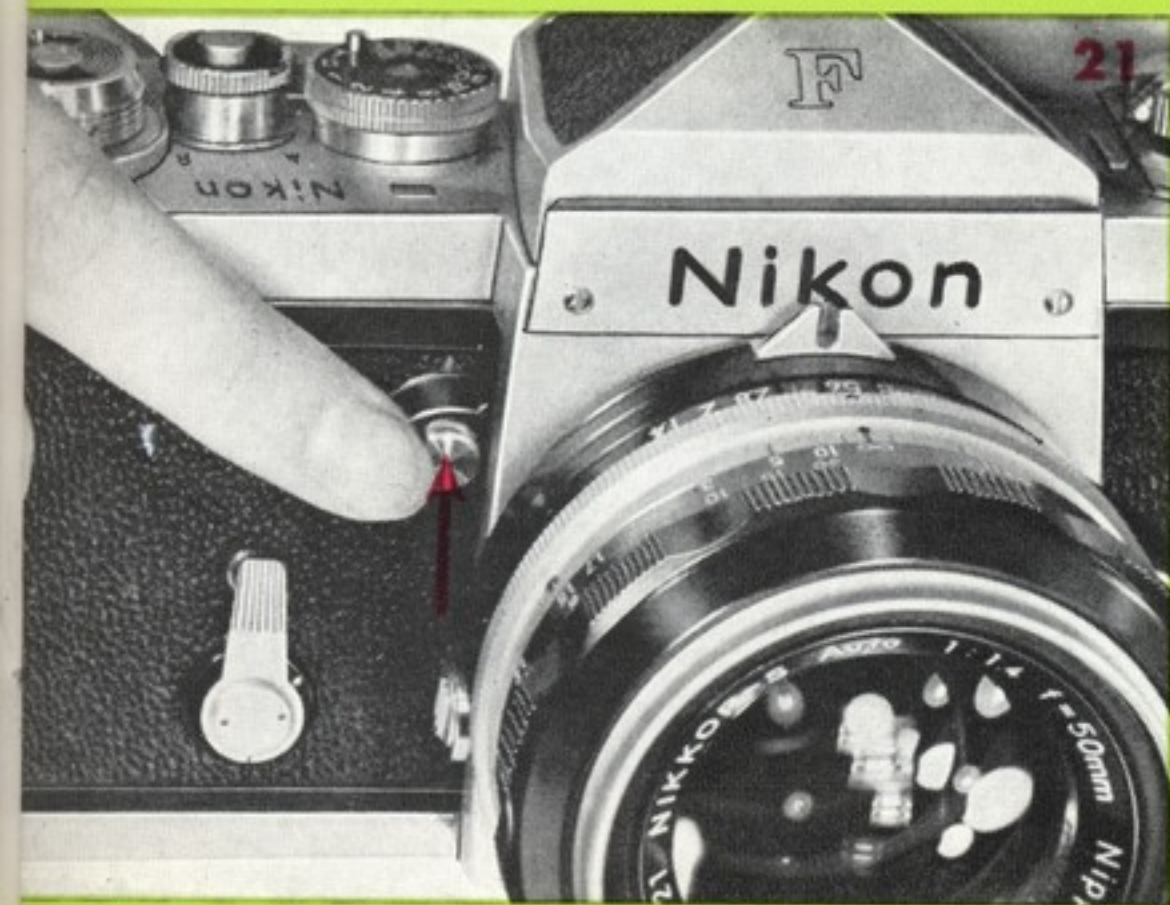


フィルム位置

特に位置表示印はありませんがカメラ上カバーの製品番号の上端がこの位置を示しております。

手動絞りボタン

レンズ取付け部の向って左側に被写界深度観測用の**手動絞りボタン**②①があります。このボタンを押すと、その間だけレンズの絞りがあらかじめセットしておいたFナンバーに絞られ、実際に撮影する被写界深度の状態が確認できます。ただし $f/4.5$ 以上には絞った場合はファインダー中央の距離計部分が多少暗くなります。



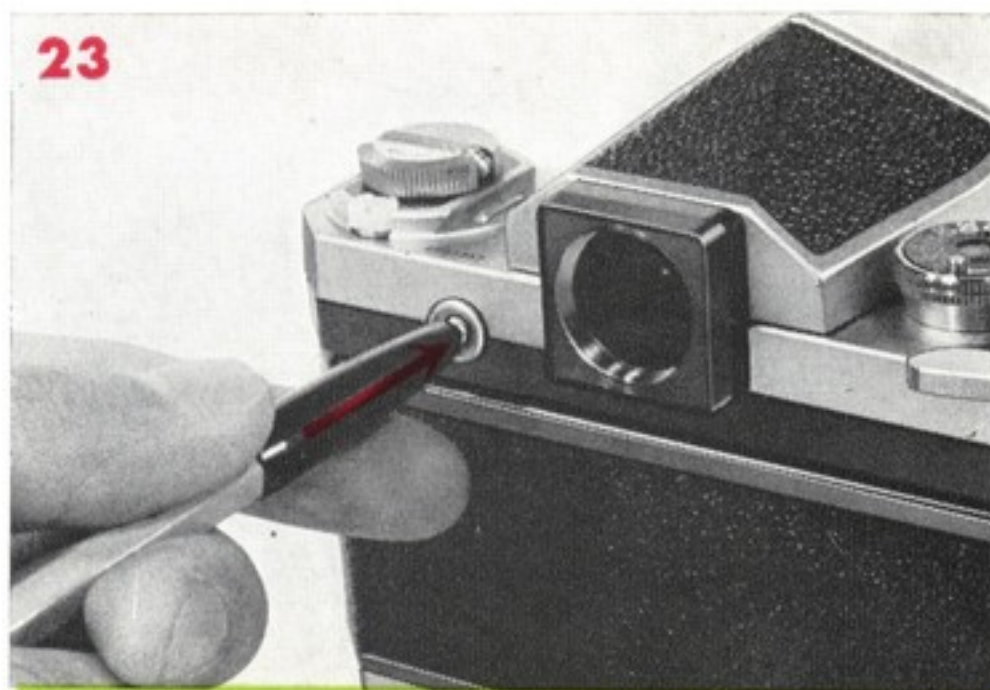
注 意!

この手動絞りボタンを押している間に、もしシャッターを切ると反射鏡が上がったままになることがあります。この場合には、一度カラ撮りをすればもとの状態に戻ります。

ファインダーの交換

ニコンF用のファインダーとしてペンタプリズム付アイレベルファインダー、TTL式露出計を内蔵したフォトミックTN、FTNファインダー(第22図)、動体撮影などに便利なアクションファインダー、スクリーンの像を真上から見られるので接写や複写などの場合に好適なウエストレベルファインダー(第24図)、があり、互いに交換することができます。

ファインダーを交換するにはまずカメラ背面にあるファインダー着脱ボタン②を押しながら(第23図)ファインダーを持ち上げて外し、代りのファインダーを同じ位置に確実にはめ込みます。(注)着脱ボタンは棒状のもので押しようになっておりますが、金属製のものや固いもので強く押しますとキズがつくことがありますのでご注意ください。



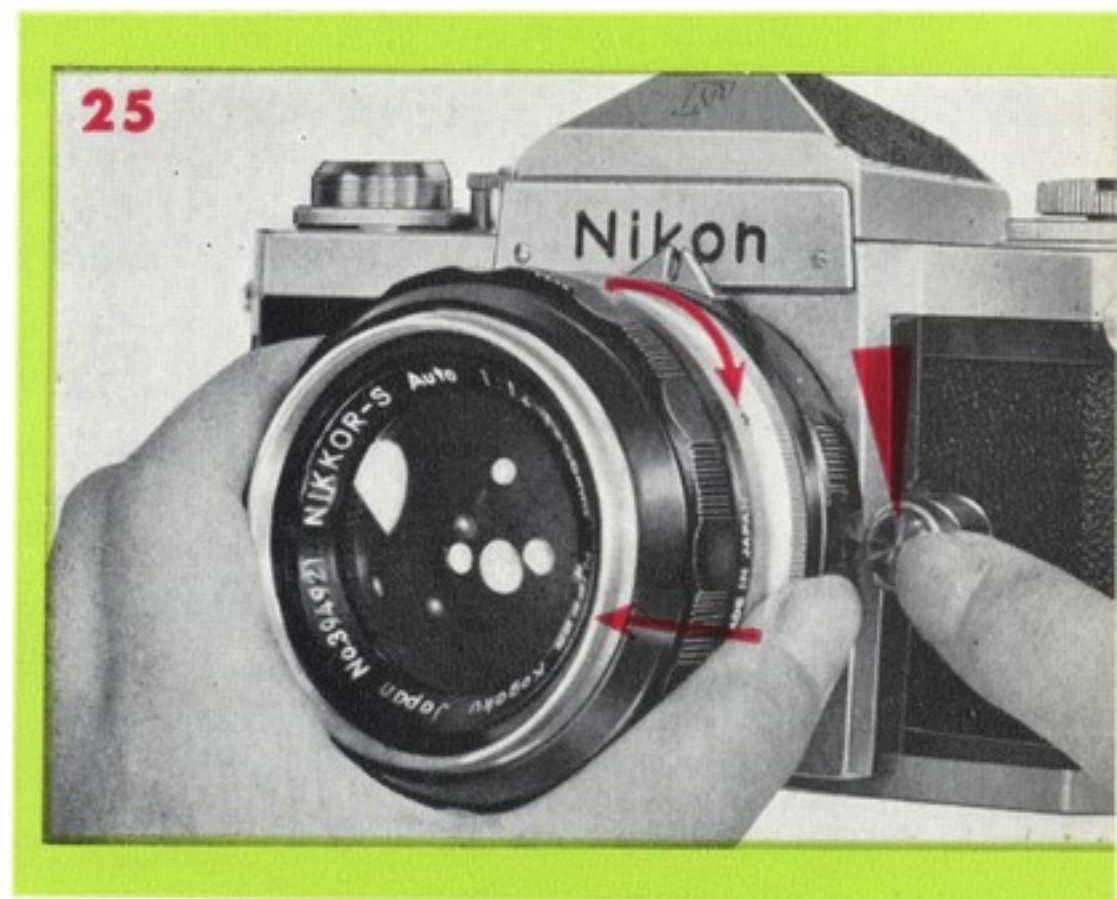
レンズの交換

カメラからレンズを取り外すには、レンズ着脱ボタンを押しながら（第25図）絞り指標⑭の黒点がカメラボデーの黒点と並び合うまで鏡胴を右（レンズに向かって）に回します。

レンズをカメラに取り付けるには、まず上述の両方の黒点を並べ合わせてから、レンズを押しつけながら逆に左方向にカチリと止まるまで回します。

カメラは、レンズのない場合にはレンズ取付部を直射日光に当てないようにしましょう。このためにはカメラの前面を掌または身体で隠します。またボディキャップも販売しておりますからレンズを付けない場合はこれをはめてカメラ内部（特に反射鏡）を保護してください。

また取り外したレンズを保護するためのケースや後ぶたも用意してあります。



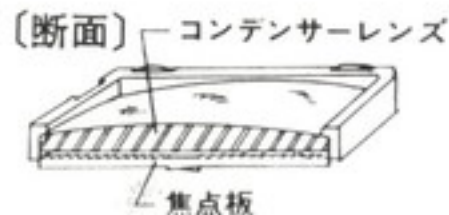
ファインダースクリーンの交換

スクリーンを取り外すにはまずファインダー着脱ボタン②②を押しながらファインダーをカメラから取り外します。次にカメラを逆さにして、ファインダー着脱ボタンを押すとスクリーンは外れて下に落ちます。スクリーンは掌か布のような柔らかいもので受けてください。

スクリーンを取り付けるにはファインダー着脱ボタンを押しながら、ファインダースクリーンの“Nikon F”と記してある側面をレンズ側にし、平らなスクリーン面を下側にしてカメラに落とし込みます。

ご注意

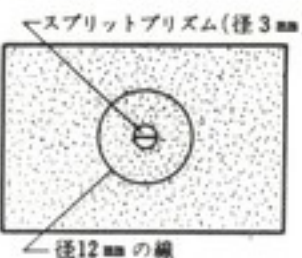
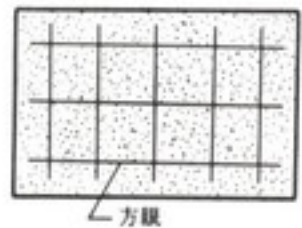
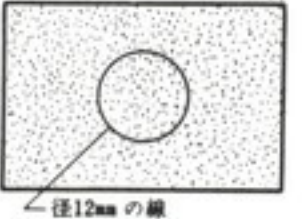
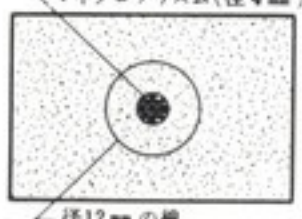
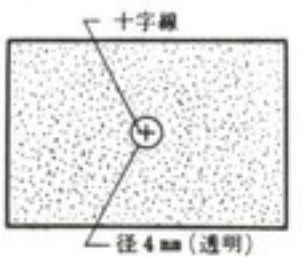
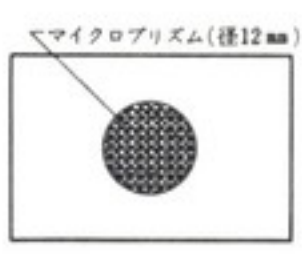
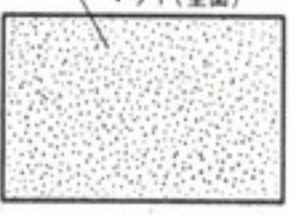
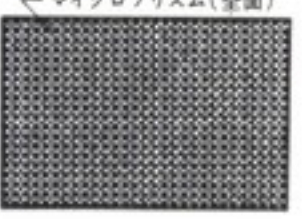
- ファインダースクリーンの表面に指紋やゴミなどが付かないように気をつけてください。
- ファインダースクリーンは、コンデンサーレンズ（上部）と焦点板（下部）から構成されており、材質は、コンデンサーレンズがガラスで、焦点板はアクリル樹脂です。アクリル樹脂は表面が柔らかくキズがつきやすいので、取扱いには十分ご注意ください。



ファインダースクリーンには次ページの表のように14種類があります。使用レンズや被写体によって便利なものを選んで交換することができます。



ファインダースクリーンの種類

型	名称・形状	特 徴	型	名称・形状	特 徴
A	スプリット式 	一般撮影用に適し、マット面および中央のスプリットプリズムを使用しますと、早く正確にピント合わせができます。ただし $f/4.5$ よりも小絞りではスプリット部が暗くなりますので、この時はマット面でピント合わせを行いません。	E	方眼マット式 	B型マット式に方眼を入れたもので、撮影の際の構図決定に役立ちます。特にPCニッコールを使用する時、このスクリーンを用いますと好都合です。
B	マット式 	一般撮影、メデイカルニッコール及び1000/6.3反射望遠レンズ用に適し、マット面でのピント合わせを好む人や、スプリットプリズムを使用しにくい撮影の場合に用います。	J	マイクロマット式 	一般撮影用に適し、中央のマイクロプリズム部およびマット面を使用してピント合わせをします。マイクロプリズム部はピントが合っている場合はマット面と同じようにはっきり見えますがピントが合っていない場合はギザギザに見えます。 $f/8$ 位より小絞りでは、マット面でピント合わせを行いません。
C	十字線式 	顕微鏡および天体写真撮影用です。眼をわずかに左右に振っても、像と十字線のずれを感じないときピントが合ったこととなります。ただし顕微鏡で40倍以上の対物レンズ使用のときはこのずれが見にくいので単に像と十字線がハッキリ見えるようにします。	G (No. 1 ~ No. 4)	マイクロ透過式 	マイクロプリズム部によってピント合わせをしますが、フレネルの部分にマット面がありませんので暗い被写体でも非常に明るい視野が得られます。その反面焦点深度を見ることはできません。また、レンズに合ったスクリーンを用いないとケラレを生じますので、No.1 (短焦点用) ~ No.4 (長焦点用) が用意されております。
D	全面マット式 	このスクリーンには、フレネルレンズがありませんのでフレネルレンズの線をわずらわしく思う人が望遠レンズを使用する時にこの型が適します。ただし、標準レンズや広角レンズを使用する時は周辺が暗くなりますから不向きです。	H (No. 1 ~ No. 4)	全面マイクロ式 	被写体が視野のいずれの個所にあってもマイクロプリズムでピント合わせができます。G型と同様マット面がありませんので明るい視野が得られます。これもG型と同様にNo.1 (短焦点用) ~ No.4 (長焦点用) が用意されております。

フラッシュユニットの取付け

ニコンフラッシュユニットBC-7型を用いる場合にはカメラのアクセサリシューに直接差し込むだけで接点に接続し、コードを用いる必要はありません。(第27図)

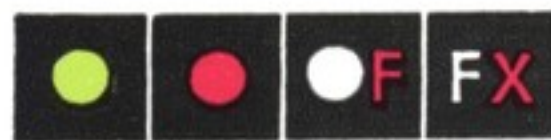
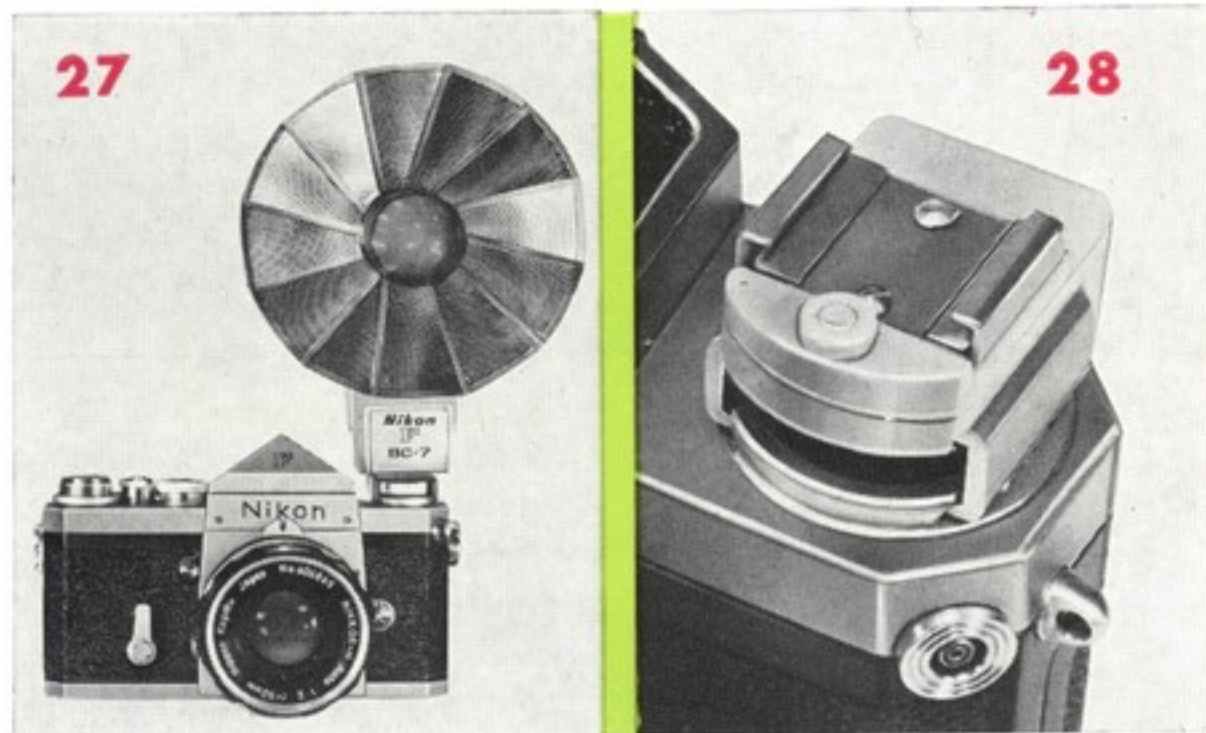
一般のフラッシュユニットや、スピードライトを用いる際には、**ガンカプラー** (第28図) をつけて、コードのプラグをシンクロソケットに差し込みます。

シンクロセレクターのセット

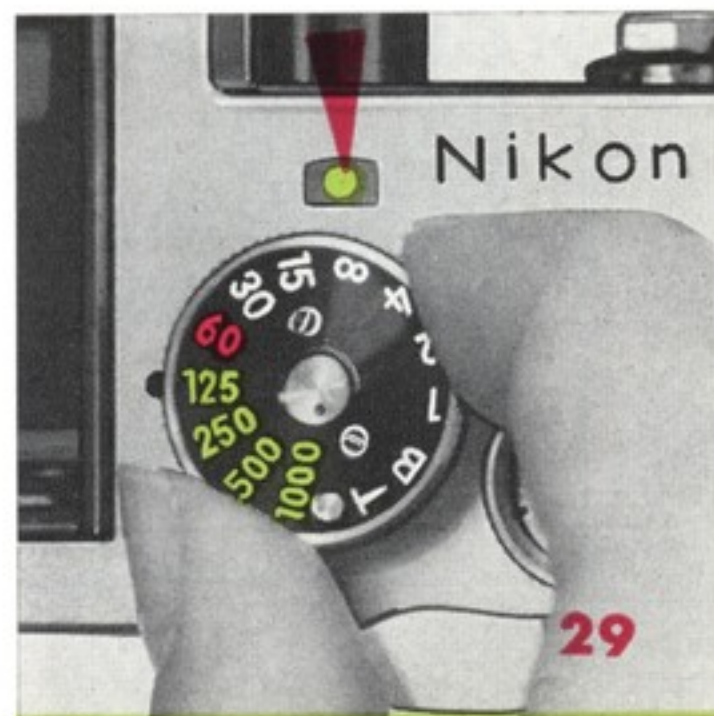
ご使用になる閃光電球の種類とシャッタ速度とによって、シンクロセレクターを次ページの表に示すようにセットすればフラッシュは完全同調します。

セレクターをセットするには、シャッタ目盛盤周縁のギザの部分をつまみ上げながら、左右いずれかに回し、図にあるようなマークまたは文字をすぐ上のシンクロ窓 (第29図) に出し、それからギザの部分を持ちこませます。

ニコンフォトミックTN、FTNカメラの場合はファインダーをいったんカメラから外してセットしてください。



右回転は緑マークで止まり、左回転はFXで止まるようにしてあります。この限界を越して無理に回さないでください。



閃光球			シャッタ速度											
	東芝	ナショナル	1000	500	250	125	60	30	15	8	4	2	1	B
FP	AG-6J Super 6 Press 6			●			●							
M		MX-0 MX-1												
	Super 0 Super 3	M-0 M-3											● F	
	Super 5 Super Press	M-5 Z-Press				●	●							
MF	AG-1 AG-3	AG-1												
X	スピードライト (ストロボライト)													FX

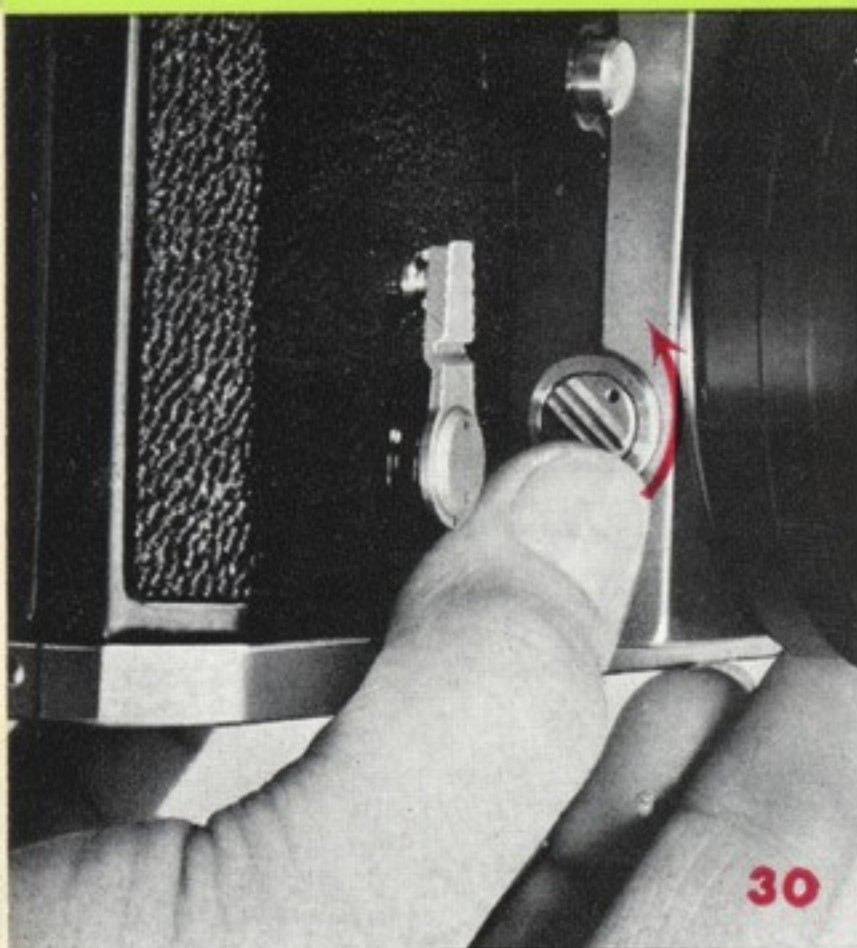
閃光電球としてはなるべく左表に示すようにFP級、M級またはMF級のものをご使用ください。なお、デーライトタイプのスライド用カラーフィルムの場合には、左表の閃光球名にBの付いたもの(例えば、Super 6 B、M-5 B)をお使いください。セレクターの合わせ方は同じです。レンズの絞りはフラッシュユニットに付いている露出計算尺によって定めます。

スピードライト(ストロボライト)の場合

スピードライトをご使用の時には、上表の通りシャッタ速度は60またはそれ以下(低速度)に、シンクロセレクターはFXにしてください。

(ただしタイムラグのある特殊なスピードライトではタイムラグに応じてシャッタ速度を30またはそれ以下の低速にします。)

反射鏡の固定



魚眼レンズはマウントが深いため、これをカメラに取り付ける場合には、まずカメラ内部の反射鏡を上固定しておく必要があります。またモータードライブを使用して連続撮影をする場合にも反射鏡を上げたまま固定しておけば便利です。

反射鏡を固定するにはカメラのレンズ取付け座の横にある**反射鏡固定ノブ**⑱を上方（反時計方向）に回してノブの黒点をカメラの赤点に合わせてからシャッターを切ります。（第30図）

反射鏡を普通の状態に戻すには、ノブを反対に下方（時計方向）に回してノブの黒点をカメラの黒点に合わせます。このとき、シャッターが巻き上げてあるとノブを回しても反射鏡は戻りませんから、シャッターを一度切ってください。

赤外線写真



赤外線写真の撮影では焦点面が可視光の焦点面位置より幾分ずれますので、このずれだけ焦点面の位置を修正しなければなりません。

これにはまずピント合わせを正確に行なってから、距離指標にあってる距離目盛値を、距離リングを回して距離指標の横の赤点に合わせます。

第31図は被写体が無限遠の場合で、∞目盛を赤点に合わせ直してあります。

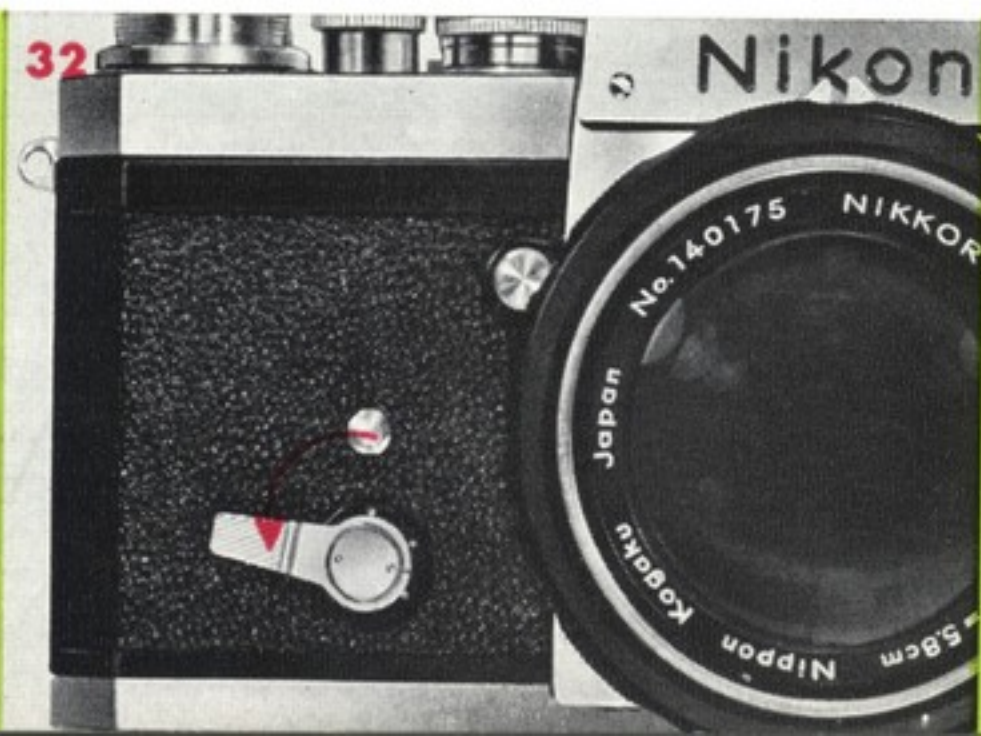
セルフタイマー

セルフタイマーをかけるには、**セルフタイマーレバー⑬**を図で示すように矢印の方向に回します（**第32図**）。次にシャッタ目盛盤をセットし、シャッターレバーの巻上げを行なっておいて、セルフタイマーレバーの下にかくれていたセルフタイマーボタンを押します。巻上げレバーの巻上げは、セルフタイマーをかける前でも後でもさしつかえありません。セルフタイマーが作動し始めるとジーと音がして、ある時間後に自動的にシャッターが切れます。セルフタイマーの作動時間はこのレバーを回す量（角度）によって3秒から10秒までの間で調節できます。三つの白点は大体**3秒、6秒、10秒**を示しています。

なお、少なくともレバー基部の黒指標線を最初の白点まで回しませんと作動しません。

セルフタイマーは1/1000～1秒のシャッターに使用します。シャッタ目盛をBにセットしてかけるとシャッターは約1秒間開きますが、Tにしておくとシャッターは開いたままになり目盛盤を回さないと閉じません。

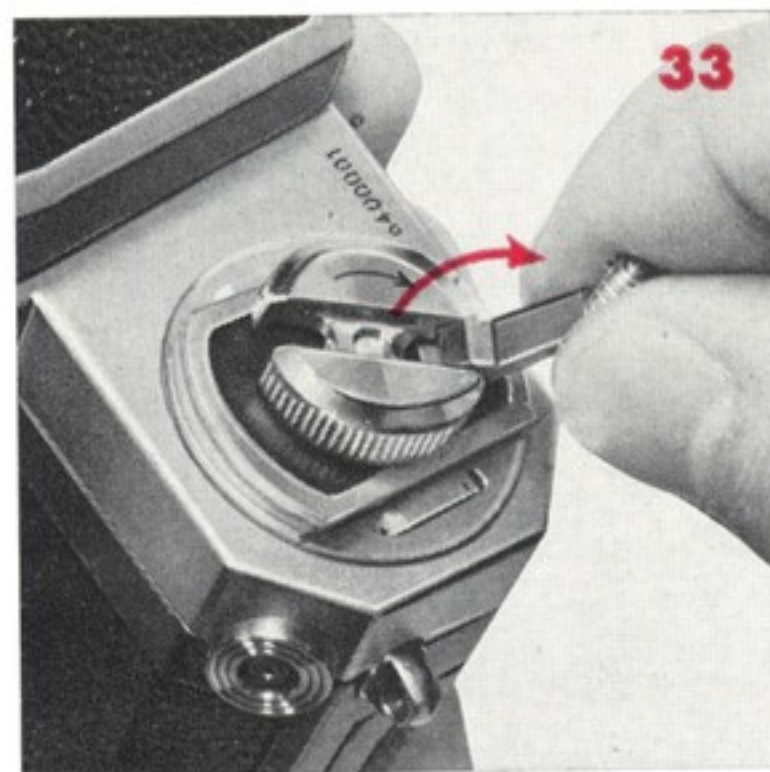
セルフタイマーレバーを回してあっても、また作動の途中でもタイマーを使わずシャッターボタンを押して撮影することもできます。ただし、この場合次のフィルムを巻き上げる前にセルフタイマーボタンを押して作動させ、セルフタイマーレバーを元の位置に戻してください。



フィルムの巻戻し

フィルム全部の撮影がすめば、フィルムを巻き戻します。まず裏ぶたを開く前にシャッターボタンのまわりの**A-R切替えリング⑤**を**R**に回しておき、**巻戻しクランク⑪**を起こして**(第33図)**、矢印の方向に回していきます。フィルム巻戻しが行なわれている間はシャッターボタンが回っています。

(ボタン上の点の動きによってわかります)。フィルムが完全に巻き戻されると一旦抵抗を感じますが、さらに回せばフィルムが巻上げスプールから外れ急に軽くなります。フィルムが全部巻き戻されると巻戻しクランクを回してもシャッターボタンは回らなくなります。ここで初めて裏ぶたを開けてフィルムを取り出します。



二重露出

特別な理由により故意に二重露出をしたい場合には、まずフィルム巻戻し**A-R切替えリング⑤**を**R**に合わせます。次に**巻戻しクランク⑪**を矢印方向に回してシャッターボタン上の点が一回転と少し余分に回るまで(180度以内)フィルムを巻き戻します。そして**A-Rリング**を**A**に戻して

から巻上げレバーを巻き上げ、シャッターボタンを押して第二の露出を与えます。この際一度目と異なるシャッター速度を与えたければシャッター目盛盤をセットしなおします。なお二重露出によって自動コマ数表示盤の撮影ずみコマ数は1コマまたは2コマ分よけいに表示されます。

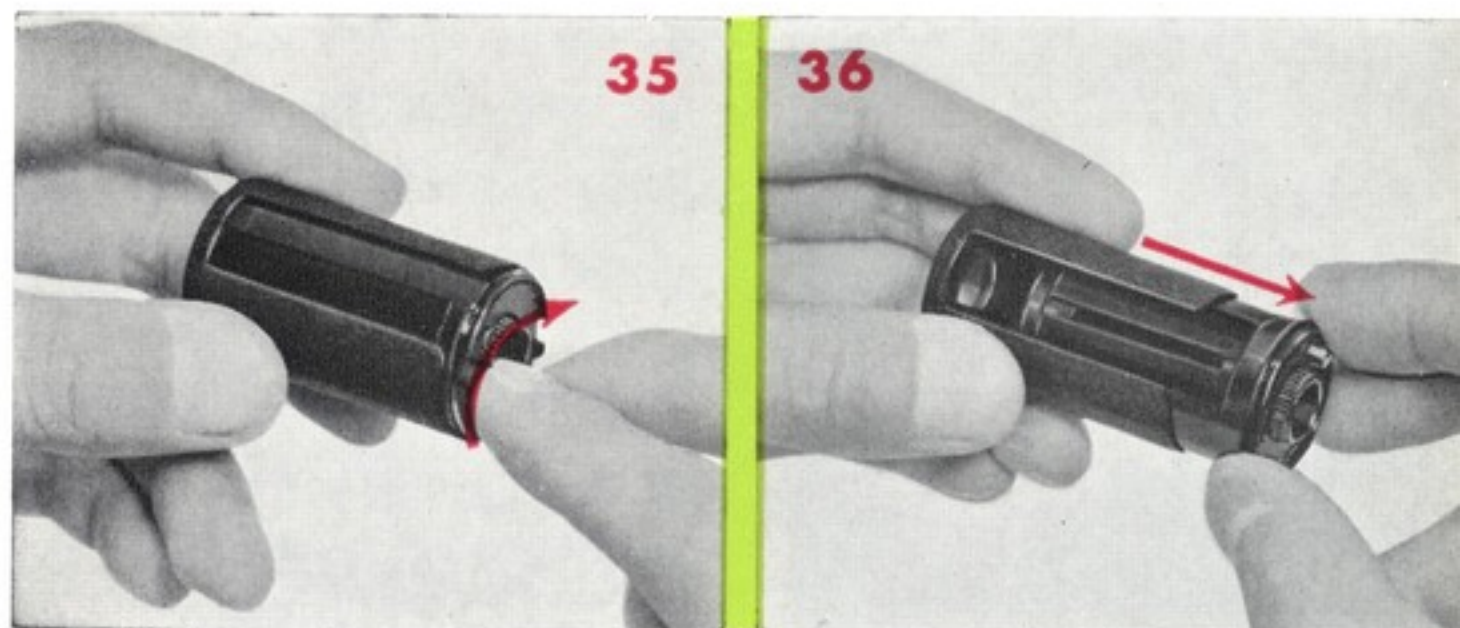


34

ニコンカメラには市販のパトローネ入りフィルムを使いますが、別に35mmフィルムを装填できる専用マガジンも発売されております。

ニコンマガジンは**外枠**と**内枠**と**スプール(巻軸)**から成っております。**(第34図)** 外枠の底の数字は装填したフィルムの感度(A S A)を表示するためのものです。

黒、白フィルムの場合には白点に、カラーフィルムの場合には赤点に合わせ、フィルムを取り出した際にはEにセットしておきます。

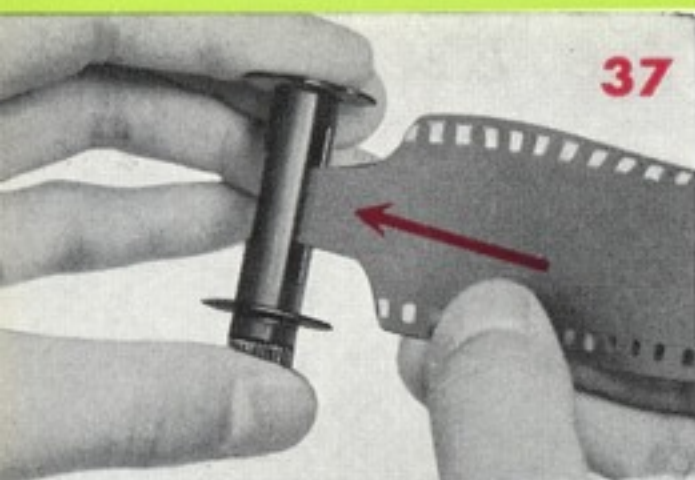


マガジンを開くには

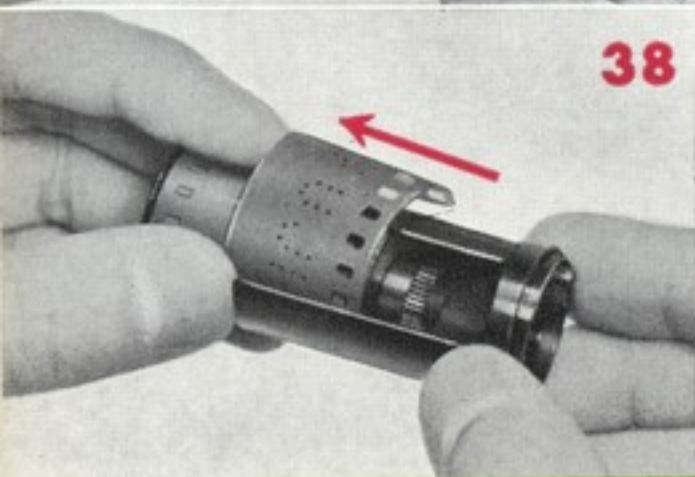
マガジンはそのスプールの突き出た方を右側にして左手で持ち右手親指で内枠頭のボタンを押しながら、外枠のあきと内枠のあきとが合致するまで内枠を右に回します**(第35図)** と、内枠は外枠からとび出しますから、内枠を外枠から抜き出せば、スプールが取り出せます。

(第36図)

フィルムのマガジンへの装填（暗室内で）



まずフィルムの末端を舌形に切ります。スプールをギザのある端を手前にして左手で持ち、右手でフィルムの乳剤面を下にして、スプールの大きい方の隙穴から通します。**(第37図)** この際舌は十分長く作り、その先端がスプールの小さい方の隙穴から1 cm位出るまで押し込みます。フィルムはこれでしっかりと歯にかかって抜けなくなりますから、乳剤面を内側にしてスプールに巻いていきます。



フィルムを巻いたスプールはそのツマミの方を先にして内枠に入れ、フィルムの末端は外に出します。**(第38図)** それから外枠をかぶせ、内枠を左へ2回カチリと音がするまで回します。

これでマガジンは閉じられ、フィルムは完全に外光からさえぎられます。外に出ているフィルム末端部はカメラに装填する時に便利なように斜めに切っておきます。

フィルムの取出し（暗室内で）



マガジンを開く時と同様にしてフィルムを巻いたスプールを取り出し、末端の舌の基の所でフィルムを切ります。**(第39図)** そして隙穴に残ったフィルムは、舌の先端（舌の基でなく）から引き出します。フィルムの切り残りがスプールの隙穴に残ってどうしても取り出せない場合には、隙穴の縁にねじ止めしてある金具を外して、フィルムを取り去ってから再びねじ止めしておきます。

カメラのシャッタ速度とレンズの絞りに連動するニコンF用露出計としては以下のものが用意されております。

○ニコンメーターIII型

メーター指針と追針を合わせるだけで適正露出が得られます。特に明るさの足りない場合はブースター(増幅器)を併用します。前面窓に乳白板を差し込んで入射光を測定することもできます。

○フォトミックTN、FTNファインダー

撮影レンズを通った光を測定するTTL式露出計をアイレベルファインダーに組み込んだもので、撮影画面の中央部を主に測光する中央部重点測光方式を採用しておりますのでコントラストの強い被写体や作画目的に応じた測光がきわめて容易に行なえます。

ニコンF用露出計一覧表

	III 型	フォトミックFTN ファインダー
形式	反射光式 (入射光式も可)	反射光式
特長	追針式、高低2段 自動切替 ブースター使用可	CdSおよび水銀電池 (1.3V 2個) 使用 TTL方式、ファイン ダー内定点式
輝度測定 範囲 (ASA100) EV	ブースターなしで 4~32000cd/m ² ブースター使用で 1.2cd/m ² 以上 5~18	F1.4レンズ使用で 0.5~16000cd/m ² 2~17
絞り連動 範囲	f/1.4~f/22	f/1.2~/32
シャッタ 目盛	B-2 ~1/1000秒	T, B ~1/1000秒
フィルム 感度目盛 (ASA)	6~4000	6~6400
フィルター 倍数目盛	1~4×	補正不要
ニコンF への取付	ネームプレートに 取り付ける	アイレベル(または ウエストレベル) ファインダーと交換

ニッコール交換レンズ表

ニコンF用として次のような交換レンズ群が用意されております。

種類	レンズ名	最小絞り	画角	至近距離	絞り	フード	フィルター	重量	備考
超広角	ニッコールオート 20mm F3.5	f/22	94°	0.3m	完全自動	ねじ込み式	72mm	390g	
広角	ニッコールオート 24mm F2.8	f/16	84°	0.3m	完全自動	ねじ込み式	52mm	290g	
広角	ニッコールオート 28mm F3.5	f/16	74°	0.6m	完全自動	ねじ込み式	52mm	215g	
広角	ニッコールオート 35mm F2.8	f/16	62°	0.3m	完全自動	ねじ込み式	52mm	200g	
広角	ニッコールオート 35mm F2	f/16	62°	0.3m	完全自動	ねじ込み式	52mm	285g	
標準	ニッコールオート 50mm F2	f/16	46°	0.6m	完全自動	ねじ込み式 スプリング式	52mm	205g	
標準	ニッコールオート 50mm F1.4	f/16	46°	0.6m	完全自動	ねじ込み式 スプリング式	52mm	325g	
標準	ニッコールオート 55mm F1.2	f/16	43°	0.6m	完全自動	スプリング式	52mm	420g	
望遠	ニッコールオート 85mm F1.8	f/22	28° 30'	1 m	完全自動	ねじ込み式	52mm	420g	
望遠	ニッコールオート 105mm F2.5	f/22	23° 20'	1.2m	完全自動	スプリング式 ねじ込み式	52mm	375g	
望遠	ニッコールオート 135mm F3.5	f/22	18°	1.5m	完全自動	スプリング式 ねじ込み式	52mm	375g	
望遠	ニッコールオート 135mm F2.8	f/22	18°	1.5m	完全自動	内蔵	52mm	620g	
望遠	ニッコールオート 200mm F4	f/22	12° 20'	3 m	完全自動	内蔵	52mm	600g	
望遠	ニッコールオート 300mm F4.5	f/22	8° 10'	4 m	完全自動	内蔵	72mm	1kg	
望遠	ニッコールオート 400mm F4.5	f/22	6° 10'	5 m	完全自動	内蔵	122mm	1.9kg	フォーカシングユニット併用

種類	レンズ名	最小絞り	画角	至近距離	絞り	フード	フィルター	重量	備考
反射	ニッコール 500mm F 5	※	5°	15m	絞りなし (NDフィルター使用)	ねじ込み式	39mm	1.6kg	カメラ縦横位置変換可能
望遠	ニッコールオート 600mm F 5.6	f/22	4°10'	11m	完全自動	内蔵	122mm	2.4kg	フォーカシングユニット併用
望遠	ニッコールオート 800mm F 8	f/64	3°	18m	f/8~22 完全自動	内蔵	122mm	2.3kg	フォーカシングユニット併用 f/8~64普通絞り可能
反射	ニッコール 1000mm F 11	※※	2°30'	8m	絞りなし (NDフィルター使用)	カブセ式	34.5mm 内蔵	2.5kg	カメラ縦横位置変換可能
望遠	ニッコール 1200mm F 11	f/64	2°	40m	普通	内蔵	122mm	3.1kg	フォーカシングユニット併用
ズーム	ニッコールオート 43~86mm F 3.5	f/22	53°~ 28°30'	1.2m	完全自動	ねじ込み式	52mm	410g	
ズーム	ニッコールオート 50~300mm F 4.5	f/22	46°~ 8°10'	2.5m	完全自動	—	95mm	2.3kg	カメラ縦横位置変換可能
ズーム	ニッコールオート 85mm F 4~250mm F 4.5	f/16	28°30' ~10°	4m (付加レンズ 使用 2.2m)	完全自動	ねじ込み式	シリーズ IX	2kg	
ズーム	ニッコールオート 200mm F 9.5~ 600mm F 10.5	f/32	12°20' ~4°10'	4m (付加レンズ 使用 2.3m)	完全自動	ねじ込み式	シリーズ IX	2.8kg	カメラ縦横位置変換可能

※6.3×NDフィルター使用のときに絞りf/12.5に相当 ※※10×NDフィルター使用のときに絞りf/35に相当

特殊目的

レンズの種類	最小絞り	用途	至近距離	絞り	フード	フィルター	重量	備考
フィッシュアイニッコール 7.5mm F 5.6	f/22	画角180°(直径23mm円形画面)	固定焦点	普通	—	内蔵	300g	カメラはミラーアップ 専用ファインダー併用
フィッシュアイニッコール 10mm F 5.6 180°OP	f/22	画角180°(直径20mm円形画面)	固定焦点	普通	—	内蔵	400g	カメラはミラーアップ 専用ファインダー併用
PCニッコール 35mm F 2.8	f/32	斜撮影の際、垂直線・水平線 の傾斜を矯正	0.3m	プリセット	ねじ込み式	52mm	335g	シフト量最大11mm
マイクロニッコールオート 55mm F 3.5	f/32	∞~1/2×までの連続焦準可能	0.214m	完全自動	ねじ込み式	52mm	235g	Mリング併用で1×ま で連続焦準可能
メディカルニッコールオート 200mm F 5.6	f/45	6種の付加レンズの併用で11 通りの倍率で撮影可能 (撮影距離3.35~0.07m)	—	完全自動	—	—	670g	スピードライト内蔵
ニッコール 135mm F 4	f/22	ベローズ専用	0.56m	プリセット	スプリング式	52mm	260g	∞~1×まで撮影可能

レンズフード

レンズはなるべくフードをつけてご使用になることをおすすめいたします。

斜前方または側方から強い光が直接にはいる場合にはフードが絶対に必要となります。

ニッコールレンズには現在**スプリング式**と**ねじ込み式**の2種類のフードが用意されております。

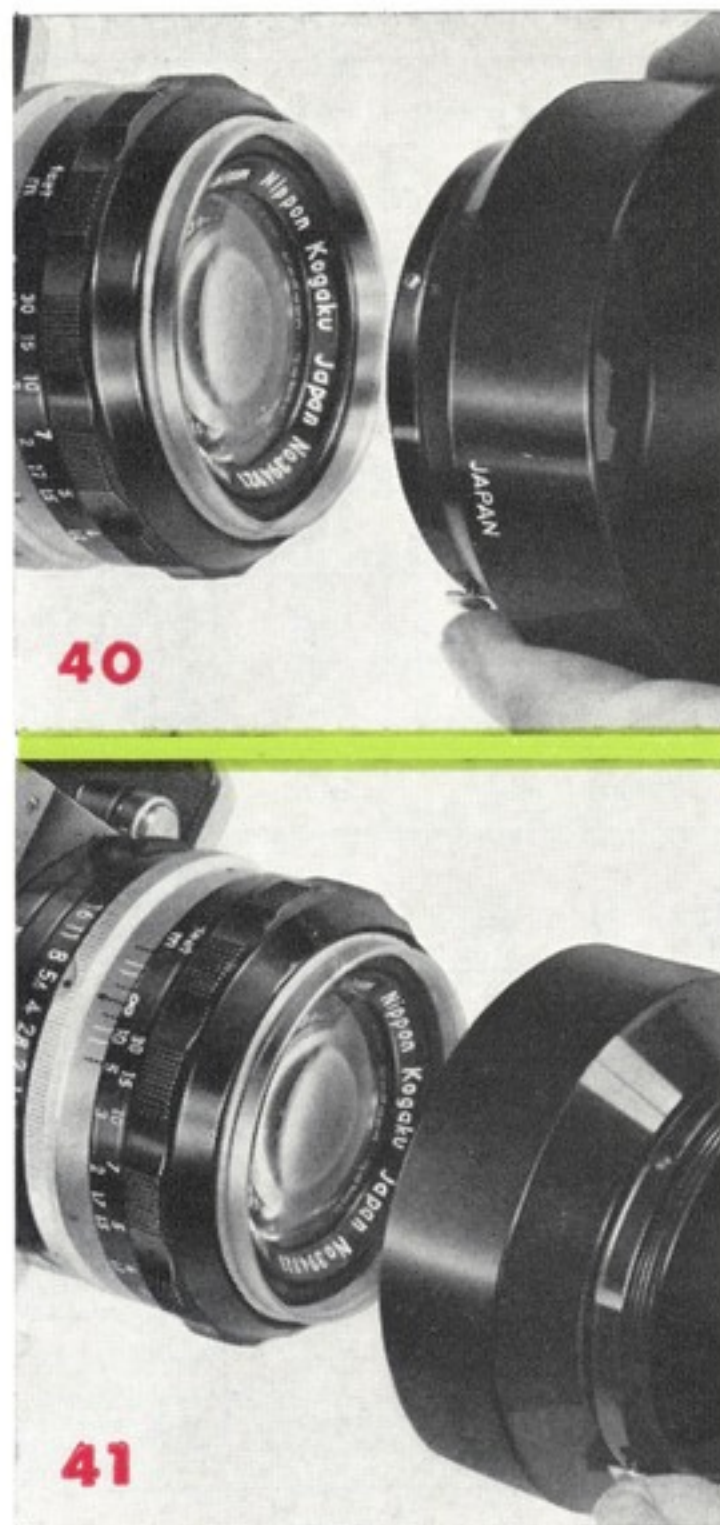
◆スプリング式フード

両側のボタンをつまんで**(第40図)** レンズの前端にはめるだけで取り付けられ、ねじ込みフィルターと共に用いることができます。また、不用時には逆にしてレンズにかぶせることができますから、標準レンズの場合にはそのまま皮ケースに収納できます。**(第41図)**

◆ねじ込み式フード

レンズにねじ込んで取り付けます。

ねじ込みフィルター、平枠フィルターと共に用いることができます。



ニッコールフィルター

ニッコールフィルターには右の表に示すような種類があり、大別してねじ込み式と平枠式の二つの形式のものが用意されております。

ねじ込みフィルターは直接レンズの前枠にねじ込んで用い、**平枠フィルター**はフィルターホルダーを兼ねたレンズフード、アダプターリング等の間にはさんで用います。

各レンズに取り付けられるフィルターのサイズおよび形式についてはP30～P31の表をご参照ください。

なお、フォトミックT_NファインダーおよびFT_Nファインダーで露出を決める際には、フィルターファクター（露出倍数）は一切考慮する必要がありません。

	種類		記号	通称	フィルターファクター		
					昼光	タングステン 灯光	
黒 白 フ ィ ル ム 用	黄	淡	Y44	Y ₁	1.5	1	
		中	Y48	Y ₂	1.7	1.2	
		濃	Y52	Y ₃	2	1.4	
	橙		O56	R0	3.5	2	
	赤		R60	R1	6	5	
	黄 緑	淡	X0	PO0	2	1.7	
濃		X1	PO1	5	3.5		
黒カ ラ 白 フ ィ ル ム 用	紫 外 線		L39	UV	1		
	偏 光		Polar	偏光	2～4		
	ニュートラル デンシティー			ND4×	ND	4	
				ND8×		8	
				ND10×		10	
		ND400×	400				
カ ラ ー フ ィ ル ム 用	スカイライト		L1A	スカイライト	1		
	アンバー	淡	A2	曇天用	1.2		
		濃	A12	デーライト	2		
	ブルー	淡	B2	朝夕用	1.2		
		中	B8	フラッシュ用	1.6		
		濃	B12	フラッド用	2.2		

ニコンFの付属品

- モータードライブF-36型
- モータードライブF-250型
- モータードライブ用バッテリーケース
- # (F-36用) 直結式電池ケース
- # バッテリーテスター
- # リレーボックス
- # マイクロスイッチ付グリップ
- # 無線操作装置
- # リピーティングフラッシュ
- フラッシュユニット BC-7型
- ガンカプラー
- 長尺フィルム巻取り器
- ニコンベローズアタッチメント2型、3型
- スライド複写装置
- 接写リングK型、E₂型
- 近写補助レンズNo.0、No.1、No.2
- 顕微鏡写真装置
- 接眼用補助レンズ
- 接眼目当てアダプター
- 複写装置PF型
- パノラマヘッド
- 水準器
- ニコンS用、ライカ135mmレンズフォーカシングアダプター
- レンズキャップ
- ボデーキャップ
- 速写ケース { ハード皮ケース
セミソフト皮ケース
ソフト皮ケース
- ガゼットケース
- アイレベルファインダー
- フォトミックTNファインダー
- フォトミックFTNファインダー
- アクションファインダー
- アングルファインダー
- ウエストレベルファインダー
- 各種ファインダー用皮ケース
- ニコンメーター(連動露出計) III型
- オッシログラフ用ユニット
- 接眼目当て
- ファインダースクリーン
 - A スプリット式
 - B マット式
 - C 十字線式
 - D 全面マット式
 - E 方眼マット式
 - J マイクロマット式
 - G マイクロ透過式 (No.1 ~ No.4)
 - H 全面マイクロ式 (No.1 ~ No.4)
- N-Fリング(超望遠レンズ用)
- BR-2リング(ベローズ用)
- フィルター
- レンズフード
- フィルムマガジン
- ケーブルリリース
- ピistolグリップ

カメラとレンズの手入れ

カメラのクロームメッキ面は柔らかい布で拭きます。カメラ内部や、裏ぶた面の掃除は、レンズを取り外してから、柔らかいハケ、またはブローアを用いて行ないます。反射鏡、ファインダースクリーンのゴミは腰の弱いハケで取り除きます。なおファインダースクリーンA、J、G、H型の掃除の際は中央のプリズム部分には触れないよう

にご注意ください。

レンズやプリズムは羽毛か柔らかいハケで軽く払い、もし指紋などがついているときは、少量のアルコール（できれば、アルコールとエーテルを約半々の割合で混ぜたもの）を柔らかい木綿布に浸ませて軽く拭きます。

カメラ番号・保証番号のメモ

保証番号	No.	購入年月日	年 月 日
ボデー番号	No.	レンズ番号	No.
住所氏名			



日本光学工業株式会社

本社	103	東京都中央区日本橋通1-7(日本橋西川ビル)	電話(東京 272)	大代表3311
大井製作所	140	東京都品川区西大井1丁目6番3号	電話(東京 773)	大代表1111
大阪営業所	542	大阪市南区安堂寺橋通2-26(大阪写真会館3階)	電話(大阪 262)	代表3271
—————	100	東京都千代田区丸ノ内1丁目4(新丸ビル1階)	電話(東京 216)	2080・5000
サービス	450	名古屋市中村区広井町3-88(大名古屋ビル4階)	電話(名古屋 563)	2881・2882
	730	広島市大手町2-11-2(農林ビル5階)	電話(広島 48)	1216・1217
センター	810	福岡市天神2丁目12番1号(天神ビル6階)	電話(福岡 75)	6031・9209
	980	仙台市東四番丁50番地(清水ビル8階)	電話(仙台 23)	1741
—————	060	札幌市大通り西1-13(大通ビル2階)	電話(札幌 23)	7896・7897